

ワールド・エコノミックフォーラムに出席して

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も開倫塾の時間をお聴き下さりありがとうございます。

6月13、14日にソウルに行き、ワールド・エコノミックフォーラムに出席しました。これは毎年1月にスイスのダボスで開かれる世界経済会議を主催する団体が東アジアで行ったものです。日本からは竹内大臣や経済同友会の北城代表幹事などがサンカし、私も十数名の日本代表団の一人として出席しました。この会議の最終日、これからこのアジアの経済はどうなるかやどのようにすべきかなど討論のあと、最後にソウルの市長さんが歓迎会を開いて下さいました。その時同じテーブルに日本に10年近くいらしたスイスの方がいて、私に日本はいま、National Identity Crisis だと言いました。National は国としての、Identity は自分自身、Crisis は危機です。国家としての自分自身を持っていないという危機、それが今の日本でなぜ早くそのことに気づいて立ち直らないのかと私に訴えました。同じテーブルにいたモンゴル大使館の方やソウル市長の側近の方も色々教えて下さいました。それ以来、私も何が大切かを考えましたが、なによりも大切なことは日本、そして日本人一人ひとりが自分を持つことだと思います。今まで外国の文化や歴史を一生懸命学び、追いつけ追い越せでやってきました。そして追いつき、自分たちがおかしくなっていました。栃木県では栃木県で一番大きい金融機関の足利銀行が国有化してしまいました。日光や鬼怒川の温泉地はいつか沈してもおかしくない大変な状況です。では、どうしたらよいのか。日本の悪い事ばかり考えるのではなく、良いことをのばす。日本が世界に誇れるものは何かを考えてみました。例えば、日本の美のすばらしさです。明治時代の思想家で美術界の中心的人物であった岡倉天心はアジアは一つであると言いました。中国・インドなどのアジアの美術が日本に伝わって一つになったと考えたのです。日本人は大陸の文化を積極的に取り入れながら日本独特の美意識に裏付けられた世界に誇る美術作品を生み出してきました。ですから、日本の美術は中国や西洋に並ぶ深い内容を持っています。すぐれた美術が日本でつくられた背景には形から入る日本人の非常に高度な鑑賞力、目ききがあったと思います。栃木には日光の東照宮というすばらしいものがあります。また、栃木には二宮尊徳という素晴らしい歴史的人物がいます。皆さんもご存知だと思いますが、小学校にある芝を背負って本を読んでいる像の人物です。この方は神奈川県、相模の国の農家に生まれました。幼い時、川の氾濫で自分の家の田畑が水没してしまう。そして、十代で両親を亡くしてしまい、おじの家で世話になりました。ですが、不幸にくじけず、自分の力で家を復興しようと努力しました。昼の仕事を終わらせると、夜は自分で作った菜種油に火をともし、本を読み続けたそうです。また、自分の経験からも学ぶことも怠りませんでした。捨ててあった苗を植えたら一俵の米が取れたことから小さい物を積み重ねて大きな結果を得るという考えを悟りました。やがて家の再興に成功しましたが、それに満足せず、小田原藩の家老の服部家に奉公しました。お供についていく藩校からもれ聞こえる講義を聴いて勉強しました。そんなことは服部家の再建をまかされ、また、栃木県の再建もまかされたのです。尊徳は勤勉

と俟約を合理的な方法に高めました。これは司法とって大変有名になりました。尊徳の教えに大勢の人が賛同し、報徳社という結社が成立し、明治以降も発展しました。このように栃木県には資本主義の原点といわれた人がいたのです。ですから我々は栃木県にいるからには、ナショナル・アイデンティティ・クライシスに自分人を失った日本人、栃木県人だと言われたいよう、自分をしっかり持つために、日本のすばらしさ、栃木県の素晴らしさ、地元の素晴らしさを学ぶことも大切だと思います。今日は歴史の話をしささせて頂きました。参考にして頂ければ嬉しいです。